

東風

HARUKAZE

令和3年1月28日発行

2011.3.11 東日本大震災が教えてくれるもの

本当の安心につなぐ

1月18日（月）に「感染症予防についてのアンケート」をあんしんメールの機能を使って実施させていただきました。

「学校では現在、感染症予防に、生徒・教職員一丸となって取り組んでいるところです。このアンケートを通して、現在の状況をふり返り、今後一層の感染予防の徹底を図って参ります。お子様と一緒に確認していただき、アンケートの回答を必ず、お願いします。1人のお子様につき、1回答をお願いします。教職員の皆さんも回答ください。」という内容のものでした。

1月25日（月）18時現在で301名の皆様に返信をいただき、その結果が右の円グラフになりました。アンケートへのご協力、誠にありがとうございました。

結果は、驚くほど私たち教師の感覚にフィットするものでした。

問3「マスクの着用」問4「手洗い・手指消毒」は、本當によく徹底され、95%以上の皆さんのが実施し、生活の「当たり前の日常」スタイルになっています。

一方、問2「会話するときの距離」問5「小声での会話」では青系統領域がめだちます。これは「できていない」「あまりできていない」と回答している方が多いことを示しています。

感染の危険性を予想し、右の五つを徹底することで、様々な感染症感染の危険を回避できると立証されています。

学校ではもちろん、登下校中も、家庭内でも、休日に買い物に行くときも、そして校外で学習するときも、右の五つを徹底することで「当たり前の日常」を維持し続けることが確実にできるのです。

「当たり前の日常」を安心感をもって生活することは大切なことです。しかし、非常時・緊急時において「今まで大丈夫だったから、これからも大丈夫」と思い込んでしまうことはとても危険です。

生徒の皆さんには過剰に不安を感じる必要はありません。「問題を見つけたら解決する（課題対応能力）」「困っている人がいたら助ける（共助）」「当たり前を疑う（危険予測）」「ここは危ないなと感じたら逃げる（自助・危険回避）」など、東中でいつも学習していることを私たちの「当たり前の日常」にすればいいのです。

もうすぐ東日本大震災から10年が経ちます。

大震災が今に教えてくれるもの、それは「今まで大丈夫だったけど、それは当たり前ではない」「当たり前を見直すために、学び続けることが本当の安心につながる」大切なことです。

2月初旬に再度アンケートを実施します。ご家族で、地域で、職場で、当たり前を見直し、行動に移していただければ幸いです。

課題対応能力

